

一般健康診断・精密総合健診

■ 一般健康診断

労働安全衛生規則第43～47条によって事業主が実施することが義務づけられている健康診断。定期健康診断、雇入時の健康診断、特定業務従事者の健康診断、海外派遣労働者の健康診断、給食従業員の検便・歯科医師による健診などがある。

産業保健において基本となる健診であり、当協会では検査～評価～集団特性を含む結果報告から事後フォローまで一貫したサービスを提供。事業場と労働者のQOLの向上を支援している。

今年度、当協会では1,757団体、270,370名に健診を実施した。また中小事業場が主体である全国健康保険協会の生活習慣病予防健診を2,063団体、23,048名が受診している。

■ 特定健康診査

平成20(2008)年度施行の「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づく40歳以上を対象とする健康診査。メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した健診で、実施本体は保険者となるが、当協会ではその大半が労働安全衛生法の健診として併用実施している。

生活習慣病予防のための特定健康診査の実施総数は被保険者で124,057名、被扶養者は3,079名であり、127,136名であった。契約体系別でみると個別契約が96.6%。集合契約が3.4%、保険者別の実施割合は組合健康保険82.2%、全国健康保険協会15.6%、国民健康保険2.2%となっている。

■ 特定保健指導

平成20(2008)年度施行の「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づく40歳以上を対象とする保健指導。特定健康診査のリスクに応じて「動機付け支援」と「積極的支援」があり、保健師または管理栄養士が対応する。実施主体は保険者となる。当協会は対象者の9割以上が労働者であるため、労働者の所属している事業場と医療保険者両者の生活習慣病予防に寄与できるよう、産業看護職の視点から連携している。

平成20(2008)年度から保健指導品質管理システムを導入し、保健指導サービスの品質管理に関する方針を設定。マニュアルに沿って委員会活動、内部監査を実施し、保健指導や運営全体の質の管理をしている。コロナ禍においては感染予防に留意し、保健指導の品質を担保しながら柔軟に対応して、対象者が途中終了しないように配慮している。

■ 骨粗鬆症予防検査

骨粗鬆症予防のための踵骨超音波による骨密度測定。骨密度の減少を早期に発見し、将来の骨粗鬆症への進展を防止することを目的に、一般診断・人間ドックのオプション項目として実施している。施設では骨粗鬆症外来を設置し、受診者の経年変化も追っている。

測定結果は、Stiffness値（S値）で評価し、20歳の平均値（YA値）と同年齢の平均値（AM値）に基づいて、職域検診で4段階（正常範囲、要注意、要受診、要治療）、施設検診で7段階（異常なし：①、軽度注意：②③、要注意：④⑤、要精検：⑥、要治療：⑦）で判定。職域ではYA値を基にわかりやすく文書で説明し、施設ではAM値を基に若年齢者（30、40歳代）で骨密度が低いものを分類し、予防について医師や保健師、管理栄養士が生活と運動の指導を行っている。

■ 歯科健康診査

口腔内全般の健康診査。一般健診との同時実施が可能で歯科医師による指導と結果通知が健診と同時に行われる。健診内容は、基本検査項目として歯、歯周組織の状態、その他について実施し、「異常なし」「要注意」「要予防処置」「要検査」「要治療」「治療中」「その他」の総合評価に分類する。

歯に関しては、う蝕の有無、処置（歯科治療）の有無、要治療歯の有無を診査し、歯周疾患の検査はCPI（Community Periodonta [Index]）で測定。CPIは検査歯の歯周組織の状態をcode 0：正常、code 1：出血あり、code 2：歯石あり、code 3：4～5mmの歯周ポケット、code 4：6mm以上のポケットという重症度（治療必要度）を5段階で判定している。また、顎関節症や口腔粘膜疾患などについても診査を行っている。

なお、平成30(2018)年度より歯科用細菌カウンターを使用して口腔内細菌数を7段階で測定し、歯科に対する健康意識の向上に役立てている。

令和2(2020)年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、顧客側の感染リスクがあるとの判断ですべて中止となった。

■ 精密総合健診（人間ドック）

令和2年(2020)年度はコロナ禍にあり、2か月間健診をクローズし再開後も数を抑え実施したため、受診者数が顕著に減少し（前年度比13%減）、特に新規受診者、60歳以上や40歳未満の減少が目立った。

健診データ平均値を例年と比較してみると、男性（特に30～50歳代）で肥満度、肝機能などがやや悪化した。男女とも血圧はやや低下している。次年度以降に、生活スタイルの変化による影響がさらに大きく出る可能性もあり注視したい。

人間ドックでは当日の検査結果をもとにした健康相談が可能であり、生活習慣が健康状態に与える影響をみることができるため、今こそ、健診は重要と考えられる。また、がん検診も兼ねており、受診控えにより早期がんの発見が抑えられてしまう可能性が危惧される。